

慈明院寺報七月号

灯火の功德



写真^{せがき}は当院の施餓鬼^{せがき}法会^{ほうえ}で本堂に飾られた灯籠^{とうろう}である。灯籠を点して供養する施餓鬼法会は、夏の仏教行事として、日本のお寺では広く行われている。三界万霊^{さんがいばんれい}（全ての生き物の霊）に供養を捧^{ささ}げて、家族やご先祖の平穩無事を祈るという法会である。

灯籠^{ぼんちようちん}は盆提灯^{ぼんちようちん}とも呼ばれ、日本のお盆行事を代表する風物詩である。その昔お釈迦^{しやか}様が孟蘭盆会^{もうらんぼんえ}（夏の先祖供養）に出てきた蛇^{へび}を追うために、灯火^{ともしび}を用意させ、火に夏虫が飛び込んで死なないように、薄布^{うすぬの}で灯火を覆^{おお}わせたという故^こ事^じに由来するという。盆提灯は先祖の霊がお盆に帰ってくる目印となり先祖の魂^{たましい}を導く灯台^{とうだい}のような存在とされている。

灯火^{しょうちよう}は、仏さまの智慧^{ちえ}（物事の相を照らし、誘惑を断つてくれる力・働き）を象徴^{しょうちよう}し、無明^{むみょう}（無知・苦をもたらす原因・迷い・煩惱・愚かさ）を消滅^{しょうめつ}させる功德をあらわす。仏壇の前に心静かに座り、火をおこしローソク（灯火）を点ける。お清^{きよ}めの意味もある灯火で、お香（線香）を焚^たいて仏様のお食事であるお香を供養する。灯火が仏壇の目印としてご先祖様を導いてくれる。

仏壇の灯火は、仏教の開祖であるお釈迦^{しやか}様の遺言^{ゆいごん}『自灯明・法灯明』にも通^{つう}じており、「自分自身を頼りとし、仏法^{ぶつぽう}（真理）を頼りとしなさい」という意味も持っている。自分自身と仏法を信じて、それらを道しるべとして人生を歩み人々が幸福である事を、お釈迦様は最後の言葉に込められたのである。マッチ売りの少女じゃないが、仏様の智慧の灯火おひとついかが？ 住職 合掌

お施餓鬼 灯籠供養法会のご案内（別紙参照）

来る令和七年 七月二十六日（土曜日）夕方七時より

*紙灯籠^{かみとうろう}に亡くなった仏様の戒名^{かいみょう}や、先祖供養を謹書^{きんしよ}して灯籠に火を点^{とも}し夕闇^{ゆうやみ}の中、数人の僧侶で読経^{どきやう}してご供養を勤めます。どなたでもご参拝頂けます。

*ご供養をお申し込み頂いた紙灯籠は、お盆（八月十五日）まで本堂に安置してご供養致します。またお盆の灯り^{あか}としてお持ち帰り頂けます。法会終了後、希望される方は灯籠をお渡しします。

お盆のおまいりについて

各檀家様には、七月中旬に「お盆まいりのお知らせ」をお送りさせて頂きます。お忙しい時期とは存じますが、宜しくお願い申し上げます。随時、お参りについてのお問い合わせ、変更等承ります。

住職のひとりごと

先月一日より慈明院開山五十周年・記念営繕^{えいせん}の為您のご寄付をお願いしております。本当にたくさんの方々にご協力賜り、ありがとうございます。営繕工事や備品修理の手續きも、順調に進めております。また記念誌や返礼品を準備させて頂き、十一月頃にお送りしたいと思います。感謝九拜。



慈明院

〒八一一一三 福岡市早良区大字西二三四一（二〇）

TEL (〇九二) 八〇四四五七〇 FAX (〇九二) 八〇四四六〇五

住職・吉住大慈

携帯電話〇九〇（五二八一）・七四九四